

る場合がある。

表5.2 学生サークル数の推移

年 度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
文 科 系	15	14	13	14	17	18	19	17	18	17
体 育 系	16	16	18	19	15	19	20	17	17	19
計	31	30	31	33	32	37	39	34	35	36

V 卒業および後援会、同窓会

学部、大学院、短期大学部、同専攻科では正式の呼称は異なるが、ここでは卒業という言葉を用いる。以下に、卒業と卒業後の進路、後援会、同窓会について述べる。なお、看護学部は2020年度（令和2）現在では、卒業生がいないため同窓会は存在しない。

1. 卒 業

卒業および卒業後の進路の状況を資料5.4に示す。この表から、入学者の履修状況の概略、すなわち留年学生および退学者の割合などを見ることができる。

資料5.5は退学者数と退学の理由を示す。学生が退学を申し出た場合には、学生部長が本人や本人の保護者等と面談し、事情をよく聞き助言を与える。退学の理由は、就職、進路変更、他大学進学などである。就職は、標準修了年限を過ぎた学生が、経済的理由や勉学への興味を失ったことなどから就職を目指すケースが多い。進路変更は、他の大学を受験し直したい、あるいは専門学校等へ進学したいという者が多く、他大学進学のために退学する場合は入学後2年以内が多い。なお、単位取得が不十分な学生には、その科目の担当教員が随時注意を促すことがあり、また、単位不足者及びその保護者に対し警告を促す文書を送付している。

学部生の卒業後の進路については、進学が約3～4割、就職が約6～7割である。就職希望者の就職率は例年ほぼ100%を達成しており、「就職に強い大学」として評価を受けている。また、進学者については、ほとんどは本学大学院に進学している。

2. 後援会

富山県立大学後援会は、全学を対象にしている、①学生の福利厚生に関する事業、②学生の就職開拓に関する事業、③学生の福利厚生施設・備品の充実にに関する事業、④学生の国際交流に関する事業、⑤大学と保護者又は保証人との連絡に関する事業、⑥その他必要と認める事業として学生会行事、サークル活動等に対する後援を行っている。

会員は、正会員として、大学に在籍する学生の保護者又は保証人、特別会員として、本会の趣旨に賛同する者からなる。会費は、学部生が50,000円、学部編入者が25,000円、大学院工学研究科が10,000円となっている。

会計は、一般会計の他に、学生の不測の事故等に係る緊急事態への対応並びに円滑な支援活動に資することを目的に学生緊急支援基金、学生が中国を含めた諸外国との交換留学等、国際交流活動に助成することを目的に国際交流支援特別会計、学生の教育環境向上の

ための福利設備・備品等、キャンパスライフを一層充実させることを目的にキャンパスライフ充実特別会計が設置されている。

3. 同窓会

富山県立大学には、1992年（平成4）に短期大学部の最初の卒業生を送り出して以来、工学部と短期大学部の2つの同窓会が併存していた。短期大学部卒業生は、前身である富山県立大谷技術短期大学と富山県立技術短期大学の同窓会である千瓢会へ入会していたが、2年後に工学部の最初の卒業生が出る段階で、工学部は千瓢会とは別に富山県立大工学部同窓会を独自に立ち上げられたためである。

工学部同窓会は年一度の総会を大学祭当日に開き、機関誌「飛翔」（1993年創刊）を発行して活動を続けていた。千瓢会は富山県をブロック別に分けて各地で総会を開き機関誌「千瓢会だより」（1992年創刊）を発行して活動を続けていた。

その後、2つの同窓会合併の機運が高まり、両同窓会では合併に向けての協議が重ねられ、2005年（平成17）11月13日ホテルアクア黒部（黒部市天神新）で千瓢会（富山県立大谷技術短期大学・富山県立技術短期大学・富山県立大学短期大学部の同窓会）と富山県立大学工学部同窓会の総会が開かれ、それぞれの総会で千瓢会と富山県立大学工学部同窓会の合併が承認された。引き続き同会場で、富山県立大学同窓会の設立総会が開かれ、初代会長に千瓢会の荒木甫氏、副会長に工学部同窓会の高田満氏が選ばれた。合併した富山県立大学同窓会は新たに機関誌「千瓢」を発行している。

2015年（平成17）には、合併10周年を記念し野開勝政会長のもと、同窓会員名簿を発行した。同窓会員名簿に載っている総数は8,744人、沖縄を除く全国に同窓生がいる。富山県は5,946人で約68%にあたり、地元に着した大学だということがわかる。

最近の同窓会活動は、地域に開かれた活動を目指しており、2017年（平成29）には足立原貫元短期大学部長の「足立原先生大いに語る～草刈り十字軍運動の軌跡～」と題する公開講演会を開き、先生の教えを受けた同窓生や多くの一般の方の来場があった。2018年（平成30）には世界的な酵素の研究者で、生物工学科浅野泰久教授の「未知の酵素を表舞台へ」の公開講演会を開いた。酵素から医学や産業応用の分野での最近の研究成果の報告があり、多くの人の共感を呼んだ。

最近の大学は新校舎の建設、学部の拡充、定員増など、ダイナミックな動きが続いている。同窓会はそれに対応するため、2020年（令和2）1月に大学施設の一角を同窓会室として改築し、移転した。同窓生への情報発信拡充のためにホームページを最近一新したほか、機関誌「千瓢」のカラー版も見ることができる。またFacebookでも情報を発信している。

これからも、11,212名の同窓生の皆様に、同窓会は母校への「想い」や同窓生をつなぐ「絆」を大切に活動を行っていくので、ご支援、ご理解、ご協力をお願いしたい。

表 5.3 後援会と同窓会の会長

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
後援会	高尾 邦彦	門嶋 雄人			鈴木 聡		島 嘉輝			
同窓会	荒木 甫					野開 勝政				